

2022年6月25日(土)

老球の細道675号

教えることは、学ぶこと

会津バスケットボール協会 室井 富仁

日本全国、あらゆるスポーツ種目で部員数の減少が危惧されている。わが会津地区でもバスケットボール競技人口の減少が止まらない。少子化、学校の統廃合などの社会の変化が影響しているのもやむを得ないだろうが、なんとかこの流れを止めて、リカバーすることはできないだろうか。

そんな折、野球において、子どもたちの野球離れが進む中、危機感を抱いた球児や指導者たちが地域の子どもたちの先生役になって野球教室を開いているという3つの学校の記事が朝日新聞に掲載されていた。

静岡県の富士高校は近所の保育園で年長クラスの園児と野球交流会を開いた。約2時間、打ち方や投げ方を教えた。園児たちは高校生の見本に拍手をし「大きくなったら野球をやりたい」と目を輝かせたという。2014年から始め、今年3月で36回実施し、約1200人が参加した。ずっと先のことになるが、野球を始めるきっかけになればと、コツコツやっていくしかないと語る。

東京の新宿高校は18年から小学生を対象に「新宿ベースボールアカデミー」を開催してきた。野球だけでなく勉強会がセットになっているのが特色である。教える側の高校生にも色々な体験ができるという。なぜ勉強会を入れたのか。監督さんは語る。「野球と勉強の両方を頑張る生徒を見て、子どもたちには“お兄さん、お姉さんみたいになりたい”。保護者にも“うちの子にもこんな風になってほしい”と思ってもらいたい」と。

青森の弘前学院聖愛高校は昨年夏の甲子園に出場しているが、教えることの効果を強調する。17年から弘前市の小学生らに野球教室を開いている。そして小学生の普及より結果的に高校生の成長に一番つながったと監督さんは語る。子供たちを指導するためのメニューはすべて部員が考える。子どもたちを飽きさせないために色々な工夫をする。そのように子どもたちに配慮することで、普段の練習や試合でも気遣いができるようになったという。

坂下高校コーチ時代、「アガサ・クリスティー事件(そして誰もいなくなった)」が勃発して大会に出場できなくなったことがある。そのため私は暇になった時間を会津地区の中学生指導に費やした。その結果、その中学生たちが坂下高校に入学し、大会にも出場できるようになった。そしてその生徒たちがその後の「坂下トップアスリート講習会」の指導スタッフに加わり、中学生を指導してくれた。バスケットのみならず人間力が鍛えられた。

人は他人に教えられるようになった時、真に「わかった」、「できた」を実感できるようになる。いつかはユニフォームを脱ぐ時が来る。その後の人生でも活躍できる人間になるために、教えることは真の学びとなるのではないだろうか。

教えることを生業として生きて来たが、いつもノートにしたためていたのは哲学者アラン(仏)の言葉。「教えるとは 希望を語ること。学ぶとは 誠実を胸に刻むこと」